

11・4日比谷野音へ!

2012年10月11日
No.60

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長)書記局通信

10・7三里塚集会での斎藤委員長発言!

全学連を代表して発言します。

まず市東さんへの農地死守へ向けて徹底的に闘うことを訴えます。まずもってこの攻撃は農業にはげみ、だからこそ最も誇り高く生き、闘う市東さんを潰すことによって日本の全ての農民、労働者、市民の生きるための権利を踏みにじる、そういう攻撃です。大資本のふざけた利益追求と国策のためなら何をやっても許されるのか! 地上げが許されるのか!



市東さんの農地を守る闘いは、労働者民衆の生活と権利を守る闘い、とりわけTPP粉砕の闘いの最前線です。全学連は現地行動隊を先頭に実力をもって、実力をもって闘い抜く決意です。

世界に目を向ければ、世界大恐慌の中で激動の時代が始まっています。国家すら破綻する危機が世界中で相次ぎ、米中の対立を軸に、大国間の争闘戦が激しさを増し、日米安保の強化、改憲、侵略戦争、領土問題が煽り立てられています。沖縄の人々の思いと生活を踏みにじって、オスプレイが沖縄の中心に大量に配備されています。47年の不屈・非妥協の闘いによって成田軍司空港をボロボロに追いつめている。三里塚闘争の地平が求められているという風に思います。

3・11と原発事故によって、本当に多くの人々が悲しみ、悔しさ、そして怒りをもって決意を固めて、命を守る、そういう闘いに立ちあがり、巨万の行動が巻き起こっています。

フクシマ、オキナワ、ヒロシマ、三里塚がお互いに求め合い、繋がり合っています。放射能と共に、ずっとこの国を支配してきた腐った政治家とブルジョアジーこそ除染しようではありませんか。

私たち全学連も3・11をもって、法大闘争を通して激突してきた。教育の民営化、学生自治の破壊、これがどれほど私たちのキャンパスに御用学者をはびこらせてきたということは、本当に見据えなおしました。法政大学で100名以上の学生が牢屋にぶち込まれ、私も含め本当に多くの法大生が退学処分や停学処分で大学を追い出されてきました。その時に、法政大学の側がいつも言っていたことは「学問の自由のために」「キャンパスの平穏な教育環境を守るんだ」こういうことを言っていたわけですが。その平穏な環境から生まれた御用学者が、いま福島で福島県民を殺しているんじゃないのか! 平穏な殺人をやっているんじゃないのか! 三里塚や沖縄に平穏があるのか!

みなさん。全国大学に学生自治会を復権し、キャンパスから御用学者を追放していく、そういう闘いをやりぬこうでは

ありませんか。いま全学連は全国大学で御用学者追放の闘いを推し進めています。一昨日も法政大学で行われた放射線影響研究所理事長・大久保利晃講演会の弾劾行動を行いました。動労千葉や動労水戸のような闘う労働組合、そして闘う学生自治会、これを甦らせ、私たちの足下からこの社会を根本的に変革する、そういう闘いを共に勝ち取ろうではありませんか。10・19法大デモを打ち抜き、11・4全国労働者総決起集会へ総結集しましょう。よろしくお祈りします。

法大生(人環2年)の10・19結集アピール!

いよいよ決戦の時は来た。10月19日、法大門前に結集せよ!

我々は起つ。なぜならこれ以上の大学の暴挙を許すことができないからだ。

密室会議のもとによる一方的な社会的紐帯の破壊、それに声を上げる者に対する弾圧によってこの社会が運営され、法政においては119人の逮捕者、33名の起訴、12名の重処分という形であらわれている。

諸君!!よく考えてみて欲しい。同じ過ちは繰り返されようとしている。1929年に起きた世界大恐慌で日本は経済的に大きな打撃を負い、在日朝鮮人に対する弾圧を皮切りとして社会運動を解体し、満州事変、日中戦争、太平洋戦争へと突き進んでいった経緯がある。その過程で京都学連事件が起こり、当時のリベラルな学生に対する弾圧が始まり、開戦までには学生運動はほぼ壊滅した。その結果が1945年の敗戦、日本人だけでも軍民合わせて400万にものぼる死者と、焼け野原である。

今もまた日本は同じ道を進みつつある。中国とのあいだに尖閣をめぐる問題が勃発し、韓国とのあいだにも領土問題が浮上している。

だが、それを大きく上回る事態が日本を取り巻いている。原発事故だ。福島の200万県民と、広大な土地を見捨てておいてたかが島一つにどれだけ力を入れとんねん! この怒りが日本を嵐のように駆けめぐっている。この流れをおしとどめない限り、決して戦争という名の蛮行を起こすことはできない。

今ここで乗り遅れば、日本は再び戦争という過ちを犯すだろう! それも核戦争という名の過ちになるかもしれない。こうなった場合、地球上で人類の暮らすところはなくなってしまうだろう。

我々はこのようなあり方に反旗を翻さなければならない。やらないことは簡単だ。だが、自分が行動を起こさなかった先にある未来は、必ず幸福であるといえるだろうか? 後でやらなかったことを後悔しても、すでにもう遅すぎるのだ。だから我々は旗を振らねばならない。大学の暴挙を止めさせる中に、未来は必ず存在する。

10・19法大包囲デモ

10月19日(金) 12:40

法政大学市ヶ谷キャンパス正門前集合

10・7動労千葉・田中委員長発言！ (抜粋)

私たちは検修・構内業務の外注化に対して10月1日から5日までの5日間にわたるストライキを貫徹してここに結集をしました。外注化強行に至る前段の、外注化のための教育訓練説明に対するストライキや、動労水戸の仲間達のストライキ、そのさらに前の闘争も含めれば、もうこの1ヶ月間ストライキを断続的に闘い抜いてここに結集をしています。

いまJR当局は、10月1日に外注化を強行しました。しかし我々はこの外注化を一つも認めていません。認めていないどころか、もう外注化の時点で今回の外注化はすべて破綻をしている状況です。だからみなさん見て下さい。必ずこの外注化は粉碎して見せます。私たちはこの外注化が「これなら絶対に粉碎できる」という本当に確信を持ちました。この闘いを動労千葉はもう12年間続けてきました。12年間外注化を止め続けてきて、当局側が破綻をして、破綻をしたが故にやらざるを得なかったというのがこの10月1日でした。私たちが改めてここで思うことが、10数年間この問題にここまでこだわり続けて組織の総力を挙げて闘い続けてきたのがいったい何だったのかという原点です。

我々は国鉄分割・民営化以来、労働者がどれほどひどい現実に突き落とされたというのを本当に悔しい思いと怒りの中で見てきました。これだけ膨大な労働者が非正規職に突き落とされて、貧困に突き落とされて、未来を奪われて、団結を破壊されて、家族も生活も全てをめちゃめちゃにされてきたという現実をこの20数年間見てきました。それが民営化・外注化・非正規化という形をとった新自由主義的な労働政策、労働者への攻撃によって行われたことでした。2000万人が非正規職に突き落とされたんです。この10数年間で50万人が自殺に追い込まれているというめちゃくちゃな資本主義社会の現実が生み出されたんです。しかし、我々はもっと悔しい思いをしてみてきたのが、世の中のほとんどの労働組合がこうした攻撃を容認をして労働者を突き落とす手先になってきたことです。

僕らの職場に、民営化が強行されて団結を守ったまま民営化体制に乗り込んで、その後、全ての仕事を全部外注化にして労働者ごと下請け会社に突き落とし、非正規化するって攻撃がのしかかってきたときに、我々はこれと闘わなきゃいけない、何があったってこれだけは許しちゃいけない、何があったって労働組合は労働組合である以上この問題を曖昧にはしてはいけない、そう固く決意しました。そして始まった闘いが、この12年間の外注化反対闘争でした。

自らの職場でこれと真正面から闘い抜いて、労働組合は、あるいは労働者の団結した力はこんな民営化とか外注化とか外注化攻撃に立ち向かう、そういう力を持っているんだということを自ら証明す

ることが闘う労働組合を復権することにつながる、その具体的な道筋だということに本当に確信を持って闘ってきました。

これに現場の組合員は本当に見事にこたえてくれました。12年間、配転されても仕事から外されても、再雇用を拒否されて60歳でクビになっても、外注化だけは認めちゃいけない。なぜか。これは自分たちの子どもや孫の未来のためだからなんだ、労働者全ての未来のためだから自分は闘う、そういうふうな全ての組合員が本当に堅く堅く団結を固めてくれました。そうしたら、検査・修繕部門は千葉だけは12年間外注化が止まったんです。全国の無数の職場から反撃を開始すれば、新自由主義政策なるものを絶対に打ち砕く力を我々は持っているんだということを私は確信しました。

いま、12年間の闘いがいったん強行されると言う局面でした。千葉では91名が仕事ごと強制出向されたうち、44名が動労千葉の組合員です。我々は本当に闘う意志をもっと強くして団結を守り抜いて、何があったって外注化を粉碎するまで闘い抜けるのかどうか。そのことがかかったこの1ヶ月間のストライキでした。現場の本当に一人一人の組合員までが、もう当局に囲まれながら、徹底的に抗戦をして、外注化のために下請け会社の、例えば就業規則を説明するのにたった1ページ説明するのに8時間かけさせる、こういうような闘いが今日いまでも続いています。だから外注化なんてことは嘘っぱちなんです。何もできていません。しかも、まだこれはことの始まりにすぎません。これからさらに追加的な外注化をし、下請け会社に突き落とす。そして非正規職に突き落とす。こんなことは我々は絶対に許せません。闘い抜きます。是非これからもご支援をお願いしたいと思います。反対同盟をはじめ、本当に長い長い闘いに全国からのご支援ありがとうございます。だけど我々は負けていませんし、これからが勝負です。この腐りきった社会のあり方、労働者を犠牲にし、戦争に突き進む以外に生きることができない資本主義体制なんか労働組合の復権で打倒しましょう！

新自由主義攻撃なのでどれほどの農民が全世界で命を奪われ、農地を奪われ、犠牲にされてきたんですか。これからやらなければいけないことは、全世界の労働者が団結をし、全世界の農民が団結をして新自由主義、資本主義の最末期の大失業と戦争を生み出すこの攻撃にもう大反乱を開始するときです。すべてが崩れ落ちようとする状況が目の前にきています。これからは我々の時代が始まるということです。闘う労働運動を復権させましょう。是非、今日集まった全てのみなさんが11月4日、日比谷野外音楽堂で開催する全国労働者総決起集会に結集して頂きたいと思います。そのことを訴えて、動労千葉からの共に闘う連帯の挨拶にかえさせていただきます。



11・4全国労働者総決起集会

新自由主義と闘う労働組合の全国ネットワークを！
JR外注化阻止！ 反原発・反失業、野田倒せ！

◆11月4日(日) 正午～

◆東京・日比谷野外音楽堂にて

【主催】全日本建設運輸連帯労働組合・関西地区生コン支部、全国金属機械労働組合・港合同、国鉄千葉動力車労働組合、国鉄分割・民営化に反対し、1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動

http://www.geocities.jp/nov_rally/

※右写真は、5950人が結集した昨年11月6日の全国労働者総決起集会

